

平成26年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日 時

平成26年6月26日（木） 午前10時～12時

2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター8階 会議室「千鳥・海鷗」

3 出席者

（委員） 神野委員、椎原委員、関委員、廣崎委員、
林委員、古川委員、大澤委員、竹下委員

（事務局） 市民局長、生活文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興課長補佐、
文化振興班主査、主任主事3名

4 議 題

- （1） 委員長・副委員長の選任
- （2） 千葉市文化芸術振興計画 進捗状況について
（平成25年度実施状況、平成26年度実施計画）
- （3） 千葉市文化芸術振興事業補助金について
- （4） その他
- （5） 連絡事項 千葉市文化芸術振興会議スケジュールについて

5 議事の概要

- （1） 委員長・副委員長の選任
委員の互選により、委員長に神野委員、副委員長に早川委員が選出された。
- （2） 千葉市文化芸術振興計画 進捗状況について
（平成25年度実施状況、平成26年度実施計画）
千葉市文化芸術振興計画の平成25年度の実施状況及び26年度の実施計画について報告し、意見交換を行った。
- （3） 千葉市文化芸術振興事業補助金について
千葉市文化芸術振興事業補助金の補助事業選定にあたり講評・意見交換を行った。
- （4） その他 及び（5） 連絡事項
千葉市文化芸術振興会議スケジュールについて説明した。

6 会議経過

【生活文化スポーツ部長】

<仮議長として議事進行>

仮議長として、会議の進行を務めさせていただきます。まず議題1の「委員長・副委員長の選任」の前に、最初の会議でございますので、本会の概要について事務局から説明を願います。

<事務局説明>

【生活文化スポーツ部長】

ありがとうございました。今事務局の方から説明がありましたように、条例第4条第2項によりまして委員長・副委員長の選任ということになっております。それでは議題1の委員長・副委員長の選任に入りたいと思いますが、どなたか立候補、あるいは推薦される方はいらっしゃいますでしょうか。

【廣崎委員】

はい。

【生活文化スポーツ部長】

はい、どうぞ、廣崎委員。

【廣崎委員】

委員長を神野先生に、そして副委員長ですが、今日欠席をなさっていますが、今までのご尽力を通して、早川委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【生活文化スポーツ部長】

今、廣崎委員から、推薦がございましたけれども、委員の皆様、どうでしょうか。

<異議なし>

ありがとうございます。異議がないようですので、それでは、千葉市文化芸術振興会議の委員長に神野委員を、また、副委員長に早川委員を決定させていただきます。なお、早川委員につきましては本日欠席のため、後日事務局の方でご意思の確認をさせていただきます。それでは、仮議長を務めさせていただきましたが、委員長が選任されましたので、ここで神野委員長と交代したいと思います。神野委員長には委員長席に移動していただいて、一言ご挨拶を頂戴したいと思います。どうぞよろしく願います。

【神野委員長】

よろしく願います。神野でございます。引き続き、委員長の任に当たらせていただくことになり

ました。二年間、どうぞよろしくお願いいたします。では、座らせていただきたいと思います。
千葉市の文化芸術に関わる非常に重要な会議であると思いますので、今回新たに委員になっていただいた方々には非常に色々ご苦勞をおかけするかと思いますけれども、是非ともご協力をいただき、千葉市の文化芸術をより質の高いもの、意味のあるものにするのができたらと思っております。

それではさっそくですけれども、議事を引き継ぎまして、今日の会議の議題を進行させていきたいと思っております。

議題の2になりますが、「千葉市文化芸術振興計画の進捗状況について」。これは平成25年度、昨年度の実施状況と、今年度の実施計画、ということになるかと思っておりますけれども、事務局の方から説明をお願いいたします。

<事務局説明>

【神野委員長】

今事務局から昨年度の実施状況についてご説明いただきました。非常に多岐にわたっているのですが、この場で全体を把握するというのはなかなか難しいかと思いますが、私から補足をさせていただきますと、現行の文化芸術振興計画の策定にあたりましては、非常に厳しい財政状況の中で、例えば、横浜市がものすごい金額をかけて文化芸術を支援するというような、そういうことは多分千葉市では難しいですね。そのなかで、緊縮型のなかでもできることをどういう風に見つけていくのかという中で、市でやっている事業を文化振興課で全体を把握して、そして情報共有をしながら、より意味のあるものにしていくということが、非常に重要視されていると思っております。

ここにあげているものは全て文化振興課が所管しているものばかりというわけではないので、事務局の方でもできるだけ把握はしていただいている訳ですけれども、細かい部分ではハッキリわからないところも一部あるかと思っております。けれども、ずっとこの計画が進んでいく中で、市の文化事業がどのような形で進んでいるのか、文化振興課が把握できている部分は増えてきていたと思っております。その中で協力できる場所を探すと、そういうところが振興しているということだと思っております。

あるいは、ここにいらっしゃる委員の方々にもさまざまな協力をいただく中で、たとえば発表をする場所が増えていくであるとか、そういうようなことでの、非常にささやかながら、という言い方がふさわしいかわかりませんが、千葉市にふさわしい文化芸術支援という形を、そういう形でとっていくということかと思っております。たとえばその中で、ゆっくりとではありますけれども、今まで固定されていた補助金のあり方を見直して、市民の幅広い、非常に主体的に活動されている方々に補助をしていく、ということ、そしてそれを拡大していきたいということ、そういうことがだんだんと実を結びつつあるという現状かと思っております。

あと、この会議でも何度か話題になりましたけれども、千葉市の文化芸術の顔とはいったいなんなのか、という議論が何度かされているわけです。その中で、メディア芸術がふさわしいのかどうかという答えが出ているわけではないですけれども、現状では、さまざまな状況の中で、メディア芸術に関して、新しい世代の育成を含めた展開を模索している、という状況かなという風にとらえております。

それでは、非常に多くの事業があるので、この部分は、ということ絞って聞くというのは難しいかも

しれませんけれども、特にこの部分をということは私の方からは申しませんので、委員の方々には、この部分はどうなっているのかとか、あるいはこの評価というのとは一体なんなのかとか、そういうことを質問していただきながら、この報告についての理解を深めて、現年度の計画に対してさらに意見を、という流れで進行させていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。結構多く事業がありますので、なかなか意見が出にくいかもしれませんが、ご意見がありましたら積極的にお願いします。

【椎原委員】

市民局生活文化スポーツ部文化振興課の総予算は、市の歳費の中のだいたいナンバーセントくらいなのかをお伺いしたい。例えば、文化における予算は1パーセントとか、国でもそういう目標がある中で、今神野先生がおっしゃったように、横浜のような創造都市みたいなものを押し出すことなく、その中でできる範囲のことをやろうということなんですけれども、そうは言いながらも、そんなに歳費の中で文化の割合は悪いんでしょうか。初めて委員になったので、まずはその部分をお伺いしたい。

それと二つ目は、年次計画で、他の部局との関係性がどのようになっているのかということをお伺いしたい。例えば振興計画の中で、文化振興課だけでなく他の担当課がある中で、それを総合する上でどのぐらい文化振興課が別の部署に声をかけられるのか、事業を把握しているのか、どういう風なネゴシエーションをしているのか、どのようなポリシーを持ってやっているのか、そういったところをお教えいただけたらと思います。

【事務局（生活文化スポーツ部長）】

まず予算については私からお答えさせていただきます。まず、現状を申し上げますと、政令市の中では、文化のソフト事業に関する予算というのはきわめて少なく、下から数えた方が早いという状況です。ソフト事業自体の予算が数千万円ですが、千葉市全体の一般会計予算が約3600億ありますから、きわめてウエイトは低いということになります。

われわれの中の予算の大きいものというのは、実は文化施設の管理経費でありまして、10億円を超える形で指定管理者に対する委託料があります。修繕費、あるいは今後老朽化が進んでいく中で、施設を維持管理していくための経費というのは、計画的にやっていかなければいけないということで、そこがどうしても義務的な経費として、ウエイトが高くなっていくということです。

ソフトにまわす予算がなかなか確保できなかったのですが、昨年からは、メディア関係とか、あるいはこの新たな補助金の関係とか、少しずつ市としても文化にお金をつぎ込まなければいけないというような認識が芽生えてきています。ただ、全体がやはり厳しいので、その中で予算を確保するには相当工夫が必要ということで、今努力をしている、工夫をしているという現状でございます。

以上です。

【事務局（文化振興課長）】

他課との関係性でございますけれども、文化振興課のほうから他の所属課の方に、文化事業を積極的にやってくださいといっても、やっていただけないというのが現状です。われわれが今行っているのは、それぞれの計画に記載された事業が実際に実施できたのかできないのか、昨年実施できなかったのはなぜか、というのを毎年度確認しています。

あとは、アーティストバンクちばの紹介を全庁的にあげまして、こういったアーティストを紹介できますので、それぞれの所管課のイベント等いろいろな事業に活用していただきたいというのを、定期的に、予算編成の前に庁内に紹介しているという状況でございます。

あと、予算の話ですが、今部長が申し上げたように、ハード面、文化ホール等の指定管理業務が約10億円前後で推移をしております。ソフト事業は25年度が約4000万、26年度は1300万ほど増えて5300万です。1300万の差ですが非常に画期的なこととして、今までは減少の一途をたどっていた文化関係予算が、今年度からなんとか財政サイドから認められて、1300万ではありますが増やすことができました。今後、少しずつではありますが文化関係予算を増やしていきたいと考えております。横浜のようにトリエンナーレで10億円とか、そんな予算規模はいきなりは無理だと思いますが、少しずつ予算を増やしていきたいと考えております。以上でございます。

【椎原委員】

わかりました。

【神野委員長】

ありがとうございました。

千葉市の場合、非常に財政状況が厳しいという中で、この会議でも予算の事を言ってもむなしというのがある、あまり語っていなかったんですが、今事務局から説明がありましたように、ここ数年、非常に前向きになってきているので、その増えた分を非常に有効に、要は市長が提唱している市民自治というものと文化芸術というものが非常に深く結びついているというような形できちんと見せていくことができるならば、おそらくはもっと増えていく、ということになるのではないかと思います。その流れに沿って、新事業というものが進行しているのかな、という風に私の方ではみております。

さて、他にいかがでしょうか。

【大澤委員】

初めての参加でよくわかっていないかもしれませんが、計画を拝見してみますと、市民レベルでの音楽芸術関係の活動が非常に盛んになってきていると思います。私も40年以上千葉に住んでいて、そういう風にも感じます。ですが、文化芸術というものは、市民が自ら日常を豊かにする、自ら楽しんでいくという方向と、もう一つ、人間として生きていくための精神の部分に関わるような、はっきり言えば質の高い本物の芸術に触れる機会という、そういう二つの分野があって、相乗効果によって人間の生活は豊かになると私は思っているんですけども、後者の、本物の芸術を伝えていく方の、芸術家の方の活動の場というのが少ないかなと感じました。新人賞の応募が増えているとおっしゃっていましたが、千葉市では、評価されたプロの方たちが生計を立てていくという場所が、関東一円を見て低い場所で、芸術家の方たちは千葉を離れていってしまう。横浜とか東京に住まれる方が非常に多い。というのが、私の長年の感想なんですけど、そういったことを食い止めるという意味でも、新人賞を授与するだけにとどまらず、その後の活動の機会の創生をし、さらにその機会によって受け手側の市民が楽しめる、という循環がほしいと思いました。

あともう一つ、いまお話があった横の連携というところですが、確かに各部署、財団など、いろんな

ところとの横の連携は全く取れていないと感じています。そう感じる理由は、市民に広報が行き届いていないというところが一番大きなところ。横の連携がないゆえに、事業のひとつひとつは頑張っているんだけど、情報がきちんと千葉市民に伝わっていない。私も資料を見て、初めてこんなにたくさんの方のことをやっているんだと知りました。しかも一つ一つはきちんとした施策の中で、細かく分かれている。予算がなくても、こういう目的で事業が行われているということ、千葉市民に伝えることはできるんじゃないかと思いました。

もうひとつ、横のつながりができないとおっしゃいましたが、できればして欲しいと思います。お金の面も含めて、そのひとつの助けになるものが企業です。千葉市には日本でトップクラスの企業が本社を持っていたりします。あとは、千葉大とはメディアの関係でもつながりはあるようですけれども、大学、高校との連携もとっていけるような形にして、そういう横の連携を深めていく。企業はお金があれば絶対に参加してきます。千葉市はお金がないわけですから、企業からお金を出していただく形でうまく歯車が回って、千葉市の芸術文化が進行するような取り組みはきっとできるはずだと感じています。以上です。

【神野委員長】

ありがとうございます。

大きく分けると二つのご提案がありました。市民参加を積極的に、という意味では非常に盛んになってきた、という評価。一方で、質の高い芸術を提供するという点に関してあまり充実してないのではないかということ。それは結局のところ、千葉を選んで芸術家が住んでくれるというような状況が減っていくということにも繋がるのではないかと、ということでした。

もう一つは、横のつながりが弱いということ。これだけの事業をやっているのだから、市民に届くような形にするべきではないか。あわせて、予算も含めてですけれども、企業、あるいは人が多く関わっている場所としての大学であるとか、学校であるとか、そういうところとどのように密な情報共有をしていくのか、協働の体制を作っていくのか、というのが求められるのではないかと、というご提案でした。前者の方は、この会議でも議論がありまして、予算が少ない中でどこに割っていくのかという議論が何度かされてきました。東京との関係の中で千葉のアイデンティティをどう設定するのかということとも関わってきている。別に答えがあるわけではないんですけれども、ここ数年は、特に限られた予算の中で、プロの公演を望むということでも、要はそういうものを求める市民の醸成も必要だね、というところで、そちらを優先してきたという議論だったかと思います。確かにその部分は課題としては残っているということがあろうかと思います。

この点について、ご意見がある方はお願いいたしたいと思います。いかがでしょう。

【関委員】

予算の問題は置いておいて、アーティスト側として、プロとして話しますと、どうすればプロが千葉でやってくれるだろうと考えたら、なにか面白そうだなというのがあれば、おそらくやってくれるだろうと思います。たとえば、芸術家が面白い場所だなと思ったりとか。ただ単に東京の劣化版の何かを渡されても、こちらとしては面白くないというのがあるのかもしれないので、どうすればここで面白いことをやってくれますか、ということ、これを芸術家に聞く場所があれば良いのではないのかなと。芸術家サイ

ドとしてはそう思います。

【神野委員長】

ありがとうございます。

東京という、どうがんばっても太刀打ちのできない存在がある中で、東京と同じことをやっても、おそらくは千葉らしい文化というのは生まれないだろうし、プロが集ってできあがるというのも難しいであろう。その際に、ある種の差異化、ここでしか見られないというもの、これは内容であるとか場所であるとか、いろんな条件があると思いますけれども、そういうものを提示するべきではないか。そのためには、表現者の側にどういうことができるのか、どういうことをしたいのか、その部分で行政がそこをサポートするというのも可能かもしれない、そういう場所を作っていくということも今後検討課題として挙げられるのではないかというお話だったかと思います。

【廣崎委員】

民間個々としては、いろんな芸術家の方に来ていただいて、いろいろ対策をやっていると思います。うちの場合ですと千円コンサートというものをやっていて、京葉銀行文化プラザなので音響もいい、地の利もいい。低価格で、子どもからでも音楽が聴ける、クラシック音楽が聴ける。そうなると会場はいっぱいになります。千葉にもたくさん素晴らしい芸術家はいらっしゃいますが、コンサートを通して東京の優秀な方もどンドンきてくださいます。そういう方法は、民間は色々考えてやっているといます。それを行政がどのぐらい支持していただけるのか。プラスアルファしていただければ嬉しいなと思います。

【大澤委員】

おっしゃるとおりだと思います。私自身も非常に質が高いものをやっているんで、お金が安くても、ここだけでしかできないものができるということで、日本トップのクラスのオペラ歌手や演出家が関わってくれます。それを行政が、というのが本当に一番大切に、ただそういう風に言っているだけだとじゃあどうやればいいのかと行政はわからないかなと思います。もうちょっと明確に言うと、例えば何かひとつ旗をあげてしまえばいいと私はいつも思っています。千葉市では、千葉市民が自分たちの発表の場としての旗を掲げた音楽祭・芸術祭をやってらっしゃるんですけども、各団体、各芸術家が参加できる裾野が広い状況でありながら、一本旗を掲げて、プロという意味で良いものが千葉で見られるという機会も作る。予算は旗をあげるだけのお金でいいので、まず旗をあげる。その1点だと思うんですね。お客さんが集まる。風の丘ホールにも全国からお客さんが来ます。北海道や広島からもいらっしゃるんですけど、いいものをしていけば必ず全国からお客さんは集まります。なので、旗をかかげることを是非行政がやってくれないでしょうか。その旗を掲げたときに、お金がないので、絶対行政は学校を巻き込まなければならぬ。それをうまくやっているのが川崎市のアルテリッカです。川崎市には映画学校もありますし、音楽大学もありますし、いろんな学校に加え、行政の持っている公民館、大きなホール、全部を巻き込んだ形で、総動員しています。チケットを切ったりしているのは市民のボランティアです。市民のボランティアが実行委員として動いています。そういった形で、よその都道府県が成功している事例はたくさんあるので、そういうところから学んで、千葉らしいものをたくさんつくってい

くということは、たぶん成功する確率も高くなるんじゃないかと私は思っています。以上です。

【神野委員長】

行政に求められるものが一体何なのか、という議論になるかと思えますけれども、今の澤委員の話は、要はいろんな主体がいるものを、一つ千葉らしい何かという事業を立ち上げることによって、あらゆる千葉にある潜在的な可能性というのをつなげていって、何かを見せることができるんじゃないかということですね。その先進事例というのは、川崎市の名前が出ましたけれども、そういったものもあるので、参考にしながら構築していくということも行政に期待されることであろう、ということかと思えます。

さて、この件に関していかがでしょう

【椎原委員】

他市の事例はいろいろありますが、ただ千葉市はすごく大きな都市なのにどうして、と思うところがあります。確かに指定管理費のところは相当高額を支払っているんですけども。

たとえば市の文化施設というのが実際にどのように稼働しているのかを調べていると、あんまり魅力がないような感じがします。それはホールマネージャーの才能とか、そういうところが大きいのかなと前から思っています。今は指定管理者がアートプレックスちば事業体で、そこは千葉市文化振興財団のほかにもいろんな民間が入って作っているわけですね。それでしたらもう少しコンテンツの魅力をあげられないかなと思います。川崎市は、東京交響楽団とか、昭和音大とか、映画学校とかがあって、その辺の強さはあるので、それを千葉にもって来るのはなかなか難しいとは思っています。あとは、千葉のオーケストラの文化が弱いのは、東京に行けばすぐ聴けるというのがあるのかもしれない。千葉にもオーケストラがありますけど、たとえば思い切って東京のオーケストラを千葉に持ってくる、みたいなことはよくやっているんですかね。

それは別の問題としても、やっぱりコンテンツ重視なのかなという気もします。僕が一番いろいろ長く見ていて思うのは、安い予算でおそらくやっているんだけど、目利きのあるプロデューサーがいてやっているのが武蔵野市です。武蔵野文化会館でやっている公演での中に、入場料が1000円とか1500円くらいで、ピアニストが齋藤さんという一人一人、ヨーロッパの若手歌手と一緒に演奏会をやっているものがあります。それが自主公演ばかりで、チケットの購入率が9割を超えているというような、そういった事業もあるので、武蔵野市ができてどうして千葉でできないのかなという感じがします。そうするとそれは市が委託しているマネージャーの能力にもよるので、そういったアートマネージャーをどういう風にするのか。たとえばヘッドハンティングするとか、いろんなことをしながらやっていかないとなかなか難しいんじゃないかなと思っております。

【神野委員長】

千葉市が財団等に指定管理等を支払うという、その事業というのは、指定管理者が主体的に行うわけですが、そこでのコンテンツに関して、もっと魅力的なものにする可能性っていうのはあると。その部分に関して、どのようにそのコンテンツの質を上げていくことで市がリードできるのかということも、課題として大きくあるんじゃないかと。市としても、財団の取り組みに関しては、ここ

数年改善をするように指導をし、非常にゆっくりとではありますが変わってきていることは感じます。椎原先生の専門は美術なんですけれども、国内の音楽に非常に詳しい先生でもありまして、どういう形で、どういうことが起きているのかということを知っている立場からすると、ちょっと残念だということなんじゃないかと思うんですね。千葉市の規模を考えたときに、もっと魅力的なコンテンツを準備し、発信することができるんじゃないかというご意見だったかと思います。これはもっともなことだと思います。現行の文化振興計画は、今年度と来年度で終了して、そしてその後続く文化振興計画を立てなければならぬということがあります。急に明日からやるというわけにはいかない内容なので、そういったことの検討内容として、強く委員会としてもお願いをする、ということで、とりあえずいったんこの議論はここで締めたいと思います。

もう一つ、大澤委員の方から発言がありました広報とか情報共有ですね。これも、この委員会では何度も取り上げられておりまして、特に公募委員の方から、割とそういう意見が多かったです。なかなか情報が届かないということですね。事務局からの説明で、いつも私たちは納得をしてしまう部分があるんですけども、なかなか難しい。予算的なものとかもあります。

けど他のやり方があるのではないかとすることは引き続き検討していただきたいというのは強くお願いしたいと思います。事務局の方から、このことについて何かございますか。

【事務局（文化振興課長）】

はい、非常にお答えしにくいんですが、これは私どもの長年の経験として、われわれが持っている情報を市民の方に正確にお伝えするというのは非常に難しいと思っております。というのは、市政だよりに掲載しても、多くは新聞折り込みですので、新聞を取ってらっしゃる方には伝わります。新聞折り込みをしても、市政だよりを見て頂けるかわかりません。あとはホームページですが、ホームページは見ていただけないとだめですから、広報媒体はたくさん持ってはいるんですが、それを実際市民の方に正確に情報を伝えるというのは非常に難しいと感じます。

私は以前、ごみ関係の担当課長だったのですが、家庭ごみの有料化などについてはものすごく広報を行っています。ビラも配りますし、出前講座などに行って、市民の方とも直接話す機会もたくさん設けましたが、それでも伝わらない。ですから、市民の方に正確に情報をお伝えするというのは難しい作業だと思っています。できるだけたくさんの媒体を使って、いろんな機会を通じて直接お伝えしてくしかないとは思っていますが、今のところ、そういった対応をどんどん増やしていくしかなく、妙案というのがないというか。

【大澤委員】

結局、ごみの問題は市民全員が知ってないと困ることじゃないですか。でも、音楽はまず興味のある方に伝わるってことがとても大切で、その人が面白いと思うからあのお友達誘ってみよう、となって、知らない人に口コミで伝わる。音楽芸術っていうのは最終的にはクチコミかなと思っているんですけども、音楽に興味を持っている千葉市民が、千葉で良いものをやっているということを知らないで東京に見に行くことが多いということが問題だと私は思っていて、そうした時に、私が思うのは、駅前を活用すればいいと思っています。音楽や芸術が好きの人が、ここに行けば必ず千葉の情報は得られるというところをインプットしてあげればいいんです。それはホームページ見るとかそういう作業ではなく、

そこに行けば必ず見られる、それは駅前だと思います。そこら辺のちっちゃいところで、三味線のあれがあるよとか、朗読の何とかがあるよ、というのではなく、千葉市が管理をきちんとして、千葉市が後援を出していたり、財団が後援を出しているという、きちんとしたものと認められたものに限っての掲示板があるということは、とてもいいんじゃないかなと。それを各駅、できれば全部の駅にほしいんですけど、まず快速の止まる駅とかが良いと思います。川崎市には必ずあります。駅のロータリーを出た、本当にまだ駅から降りる前のところに看板があって、きちんとガラスで鍵がかかっています。誰かがいたずらしないようにきちんとなった中に、素敵に音楽会の情報が出ています。ちょっと手間がかかりますけどね。でも、どこかに行けば必ず見られる、千葉市の芸術関係の情報がわかる、ということをまず知らせることかな、と思います。いかがでしょうか。

【事務局（文化振興課長）】

大変参考となります。ありがとうございます。

【神野委員長】

以前の議論でも、例えば駅前に情報センター的なものが欲しいという議論なんかもあったんですけど、やはり予算的なこともあり、ということもありました。いずれにしても、市の掲示板は奪い合いというところがある中で、今の澤委員のご提案というのは、文化芸術だけで独立したスペースを持つぐらいの気概を持ってほしい、そうすれば関心を持つ人たちの目は必ず引くだろう、というご提案だったと思います。これは今後検討していただければと思います。

さて、そのほかいかがでしょうか。

【古川委員】

広報の件で、千葉市で非常に広報がうまくいっているところが一箇所あります。それは市の美術館です。市の美術館が作る、われわれに出すペーパーは非常によくできていて、ほぼそのまま原稿に使えるようなものをしっかり作っています。これを年4回から5回企画展のたびに作っていますので、本当にいい見本がありますので、こういうものを作ればマスコミが動くんだという良い例があるので、それは是非見習う、というのはおかしいですけれども、同じようなことを、他のイベントでも発信できれば動くということはわかっていただきたいということです。

実際に今回事業評価されているものの中で一度検討してみたいと思うのは、千葉日報に限らずテレビ新聞含めての話なんですけれど、報告書の中のイベントで、新聞に載ったものはいくつあるのか、非常に大きい規模でやっているにも関わらず、メディアが全く無視しているものはないのか、あるいは、規模は小さいんだけど、たくさんの新聞が取り上げているものはないのか。そのあたりを一度確認していただいて、それはなぜそうなったのかということ、広報がうまくいったから小さいイベントでも新聞各社が取り上げている、逆にいいものをやっているのにどこも取り上げてくれなかった、というのがあるはずですので、そこを一度再確認していただきたいという気はしています。

その最たる理由が、市民芸術祭の中のメインに千葉市展というのがあって、市の美術館をこの時だけ唯一、無料公開します。行くとわかりますがものすごい量の展示があって、もちろんアマチュアですからレベルは若干低いかもしれませんが、全部見ようと思ったら1日かかりで見なければいけないよ

うな美術展が実際に千葉市内で行われているのに、これは残念ながら美術館の主管事業では多分ないので、広報が上手にできていません。チラシ一枚を我々に投げられて、しかもそれは市展だけではなくて、市民芸術祭のチラシで、一か月間くらいの期間にやるあらゆる、茶道・文化・文芸・音楽・伝統・芸能等が一覧表になっているチラシが一枚入っただけで、ここではこういうものがやっています、という、我々が触手を伸ばすような説明は何もなされていない。そこが詳しく書かれていれば、われわれは動くわけです。それこそ同じ会場なんですから、市の美術館がやっているようなプレスリリースを考えれば、すぐ動くんじゃないかなと思いますし、そういうところから一回チェックしていただきたいなという風に実感しております。

【神野委員長】

ありがとうございました。

美術館の話が出ましたけれども、千葉市美術館は数年前、専従の広報担当の職員を置きました。それから学芸員の話を書きますと、非常に広報の仕事がスムーズになってきたとのこと。今古川委員がおっしゃっていたように、外から見ても非常に使いやすい情報が定型されているから、結果として、様々な媒体に載るのであろうと。そこから考える時に、それぞれの事業の情報がどのような形で広報媒体へ流れたのか、ということを検討していく中で、効果的な広報の在り方というものを、市として把握をして、そしてそれにのっとって効果的な広報を行う、ということが求められるのではないかというご提案だったと思います。これは是非やっていただきたいなと思います。よろしく願いいたします。

【大澤委員】

「あでるは」と市政だよりのことも一つ言っていていいですか。そういう意味でマスコミの方も取材してみよう、載せてみよう、という風な気持ちになるような情報提供として、市政だよりの「あでるは」が生きているかっていうと、そうではない。つまりお客様も、それを見て行っていいものかどうなのかが判断つかなくて、スルーしてしまうものも結構ある。市政だよりはうちも毎回お願いしていて、今回結局枠がなくてだめでしたという報告があったんですけど、載ってもほんとに大した情報が載らないので、あれは逆になくてもいいんじゃないかと。市政だよりに載っても、ただその日に何がありますよという報告だけですよね。いわゆる行政の方の、いつ、なにがありますよとただ言っているだけの状態で、それがどんなものなのか、何なのかというのが、市政だよりを見ても何も市民には伝わらないので、載ったといってもうちはそこからの集客はいつもゼロです。なので、市政だよりの中に掲載する意味がどこにあるのかなという気はちょっとしています。

その一方で、千葉市文化振興財団の方に預けている「あでるは」ですけれども、一回市長が新しくなった時点で、予算カットという意味で外部に編集をお願いしていたのを一回取りやめて、財団のほうに移りましたけれども、その前まではきちんとした冊子だったんですよね、カラーで中綴じの。毎回、千葉市出身だったり、千葉市がかかわるアーティストが載っていて、記者が取材をしたきちんとした情報が載っていた。裏にも、お願いをすれば必ず情報をきちんと載せてくださるという形が取れていた。それが今の「あでるは」は、ほぼ財団の宣伝広告だけになっている。うちは千葉市文化振興財団からの後援ももらっているんですが、後援をしても載せない、というわけがわからない状況です。「あでるは」が完全に冊子の形もなく、ただ一枚ぴらを折ったような形で、ただ単に市政だよりの延長のようになっ

ていて、それが全部財団関係の情報のみになる。いったいどういうことなのかなという風にいつも思っています。前のような「あでは」は、とても千葉市として誇れる珍しいものだったんですけれども、それがなくなったことはとても残念だなと思っています。以上です。

【神野委員長】

「あでは」が、以前の冊子形式から非常に軽いものへと変わったことには理由があるかと思うので、事務局の方からそこについて説明があればお願いいたします。

【事務局（文化振興課長）】

大澤委員もよくご存じだと思いますが、もともと「あでは」は千葉市文化振興財団が出していたもので、千葉市が補助金を出していたんです。それが千葉市の財政難によって、その分の補助金がカットになって、財団の自主事業、財団の経費でやらざるを得なくなって、あの形態まで内容的に少ないものになってしまっている、というのが現状です。かといって、いきなり補助金復活というのは難しい面があると思います。財団も運営が非常に厳しい団体ですので、そこにどれだけ経費をかけてやるかという話はあると思いますが、私どもも以前の「あでは」は、自分たちの公共の事業だけじゃなくて、民間がやっているようなイベントも全部載せていましたから、本来はああいうものが情報誌として良いものだともちろん思っています。あとは経費との兼ね合いでどこまでできるか。

あと市政だよりに関しては、私どもは市政だよりのセクションではありませんが、本来市政だよりのというのは、市政だよりでですから、市の情報を市民の方にお知らせするものです。そこに掲載上余裕があれば、民間の方の市の後援事業などを掲載する、という前提がありますので、基本的には市の事業をお知らせするという一方通行な媒体、そういうものであるとお考えいただきたいなと思います。

【神野委員長】

さまざまな課題があるとは思いますが、おそらく課題となってくるのは、目に見えないさまざまな活動が目に見えるような形にして、そこにお客さんとしていく、あるいはそれを運営する側として協力したいという市民が出てくるとか、さまざまな関わり方をしたいと思える現れ方、出会い方ができるかどうかだと思います。そのためには、たとえばすぐにはいかならないと思いますが、財団が主催するものも含めて、市が市内で行われているさまざまな文化事業を見通せるような情報誌を作るとか、そういうことも現実性は現状の予算では厳しいかもしれませんが、検討課題として載せるという価値はあるかだと思います。それと同時に、市民ニーズが一番重要になってくるかだと思います。理想的にはそういうものがあるべきだということは、話としてはわかる。けれども、市民がどれだけそれを望むようになっているか。それは相乗的なことだとは思いますが、同時にやらなければいけないことだと思うんですね。市民の意識を高めていくということと同時に、情報の発信もする。そのバランスがどこらへんで作られるのかということは今後も検討を続けていきたいと思っています。

【廣崎委員】

市政だよりのことですが、大澤委員がおっしゃったのはわかるんですけれども、年齢的にいろんな方が千葉市には住んでらっしゃるわけですね。駅に広報板をというのも素晴らしい案だと思うんですが、

駅までいけない方が中にはいらっしゃいます。でも、ちょっと体の不自由な方とかも、市政だよりを見てそれが情報のひとつだと思っている方は千葉市の中にはたくさんいらっしゃると思うので、今後とも掲載は必要だと思います。民間の後援は、数限りなくたくさんの団体がとっていると思うので、民間情報を載せるのは難しいというのはわかります。市がやっている活動ですら本当に2～3行ですからね。それで読み取るのが難しいというのはありますけれども、連絡先が書いてあればその団体に直接伺えますので、そういう情報を取る上ではとても大切なものかなと思っています。

【神野委員】

この会議でも何度か課題になってきましたが、市はあらゆる世代を対象にしなければいけないので、ネット上でという解決策が一番言いやすいことではあるんですが、そうすると高齢者は見ないだろう。あるいは、駅に行けない人もいる。その中で、すべてに満点の広報計画っていうのはなかなか難しいと思いますけれども、どういう風なプランを持って、説明ができるような広報計画を持つかっていうのは非常に大きな課題だと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

【関委員】

これを見て一番興味深いのはメディア芸術振興事業なんですけれども、予算で言うと、千葉市にしてはけっこう出しているなど。しかし、メディア芸術事業としては少ないのかな、とか。その辺のことは僕にはわかりかねるんですけど、これだけ旗をあげてやっているわけですから、たとえば今言ったような広報の事とかも、そのメディア芸術の中にも取り込めるのではないか。新しい千葉市の広報の在り方として、このメディア芸術というのを使うということもあるのではないか。せっかくやるんですから、どういったことがこの予算規模のなかでやれるのかっていうことは色々考えてもらいたい。要はやわらかい頭でいろいろやりましょうということでしょうから、そのやわらかい頭を使って、そのメディア芸術振興事業の中から、また芸術文化振興に対してどういうことができるのかということも考えられるのではないのかなと思います。

【神野委員長】

今のお話というのは、メディア芸術に予算を割いて、自主的な公演というか上演みたいなことをやっている時に、千葉市のさまざまな情報を発信する内容も織り込むような、新しい提案というのもできるんじゃないかということですよ。なかなかハードルは高いと思いますけれども、クリエイターにはそういうものも期待できるのかもしれないなと思います。

【椎原委員】

メディア芸術の概念定義はよくわからないというか、いわゆる文化芸術振興基本法の中にあるメディア芸術というのは幅広いわけですよ。それで、なぜこれがメディア芸術に特化しているのか。アニメでもマンガでもいいわけですから。そうするとたぶん市民の中では、いきなりメディア芸術って言われても、って感じがあるかもしれないですね。手っ取り早いのは、文化庁のメディア芸術祭のようなものを、千葉で千葉展としてどうにか開催するとか、そういったことを継続的にやっていけば、メディア芸術って幅広いと思いますので、こんなものか、ってわかると思います。今年度は予算が800万円つくよう

ですが、有効な方法でやるようにお願いします。

【事務局（文化振興課長）】

現段階ではまだ構想段階ですけども、NHKさんのシステムを使って、育成タイプのイベントをやろうと考えています。クリエイターの人向けがテクネ、子供向けがクリエイティブ・ライブラリーというものを使って、それとは別に、皆さんに見ていただくものは、市内の映像のアーティストたちをお願いして別途作ろうかと思えます。昨年度はきぼーのプラネタリウムを使って、そこに市内アーティストの方の映像と合わせて、生演奏によるプロ公演をしました。今年度どうするかですが、それに似たような映像イベントと、あとはできれば市内の商店街あたりに何ヶ所か小規模な映像アート作品を表示できればと考えています。そのような形で、とりあえず今年度は映像アートの形でメディア芸術をやりたいと思っております。

【事務局（生活文化スポーツ部長）】

補足ですが、こういうメディア関係に取り組んでいるわけなんですけれど、千葉市が主体でやるのかということ、そういうことではないと思っております、実行委員会を昨年作りました。この実行委員会を今年度はさらに膨らませて、芸術に関わる方々にできるだけ入っていただいて、そういう組織作りを盛り上げていった上で、数年後には、先ほど椎原委員からご指摘がありました文化庁を使うかどうかは別にして、芸術祭的なものまでつないでいきたいなと。すぐにはできないんだけれども、受け皿づくりという意味でしっかり取り組んでいきたいなという風に思っています。

【神野委員長】

ありがとうございました。

メディア芸術というものは非常に範囲が広いということと、テクノロジーがあればいいわけでもないですけども、そのテクノロジーにはものすごくお金がかかったりするとか、いろいろな側面からそれを盛り上げていくということというのが、課題としてあるかと思えます。その中で、千葉市がメディア芸術にチカラをいれていくということのストーリーが見えにくいというのは現実にあるかと思うんですね。実行委員会をたちあげたときに、それはどういうストーリーがあって、どういう方向に、それがどこの応用を得て進んでいくのかというのが、文化振興会議に関わっている私としてもよく見えなかったというのが正直なところでございます。

メディア系のものは、ものすごく感覚的にダサいなっていうものと、クールだなっていうものが端的に評価が分かれてしまうものなので、非常にリスクなものでもあると思います。そこらへんをどういう風に考えていくのかというのは、実はクリエイターの側だけでは全然成立しないものなんじゃないかなという気がします。なので、メディア芸術の範囲と、そのメディア芸術を千葉市がやることの意味づけっていうものをきちんと議論して行ってほしいなと。それを質的に担保するためには、当然、予算と人的な資源をどこからどういう形で確保するかとか、人的なものに入るかと思えますけれども、マネジメントも求められるかと思えます。簡単なことではないだろうという気がしておりますので、先ほど椎原委員のほうからもご指摘がありましたけれども、千葉市の事業のなかではメディア芸術は突出して高いという言い方もできると思いますので、そこらへんをお願いしたいということですね。

いかがでしょうか。

【大澤委員】

今年行った子供に対するメディアの教室というのは結構お金はかかるものなんですか。

【事務局（文化振興課長）】

今年やったのは40～50万ですね。

【大澤委員】

それとは別に、予算が増えた部分っていうのは、外のどこかで上映をすとかいう部分が増えていくっていうことになるんですか。

【事務局（文化振興課長）】

そうですね。それと、子供向けも、今年は一日しかやれませんでしたけど、来年は二日とか三日とかやれるかなと思っています。

【大澤委員】

子供に向けてやるっていうところは、どうしてそういう風になったんでしょうか。というのは、メディアって今本当に最先端で、日本中誰でも教育しているところで、逆に言うと学校教育でもどんどんやっているとこであったりするので、それをあえて行政が、ちっちゃい、まだ小学生のうちとかにやるということに何か大きな意義があるのかなという気がします。下から作っていくのではなく、上の、最終的に出来上がったものを見て、芸術家になりたいと思ってもらうとか、そういうのが見えるならわかるんですけど、行政がどこを担うのかというのが重要なと思いました。感想としてなんですけれども。

【事務局（文化振興課長）】

子供向けの育成と、クリエイター向けの育成と、それから作品を見せるという三本立てになっています。

【大澤委員】

作品というのは、お金にならなきゃいけないじゃないですか。最終的に職業とならなきゃいけないですよ。そうしたときに、行政の方で、こうだこうなるとか、職業と結びつくところを示せば。例えば、舞台の後ろの映像がプロジェクションマッピングで舞台になる。そこではそういう舞台美術家として仕事になるじゃないですか。そういう風に、何がどう現れてくるのかなという感覚があります。

【神野委員長】

800万というのは大きい金額ですけども、メディア系のことをやるのにこの金額で、っていうのは正直多分多くの方が思われるのではないかと思います。そのときのお金の使われ方ということなんじゃないかな。その時に、要は教育事業をやりながら作品を上映すると。その作品につけられる予算とし

て、誰にどういう形で行くのかっていうのは、クリエイターが社会の中で生きていく上でも非常に重要なことなので、循環の仕組みと、この事業がどう関連づけられているのかということも、市の考えとしては重要になってくるかと思えますけれども、現状では、みなさん他に仕事があって、市の事業に協力するという側面が強いのかもしれないですね。それは本来の形としてはありえないのかもしれませんけど、日本の文化的な状況がそういう状況にある、ということも現実ですので、そこも含めて、このメディアも含めてですけれども、千葉市における文化芸術活動というのが、プロの方々とどのようにささえながら、同時に市民がそこから多くを受け取っていくという循環を作れるか、ということも意識していかなければいけない、ということかと思えます。メディア芸術、色々課題はあるかと思うんですけれども、今いろいろ意見が出たことも含めて、より良いものにして頂きたいと思えます。あとなるべく情報提供もよろしくお願いいたします。

ちょっとこの議事に時間を取りすぎってしまったので、椎原委員が後ろに時間がせまっているところもありまして、千葉市芸術文化振興事業補助金についての報告をしていただかなければならないということで、本当はこういう議事進行はよくないと思うんですが、この進捗状況については、とりあえずこの議論で一度締めさせていただいてよろしいでしょうか。
ありがとうございました。

<<非公開議事につき中略>>

【神野委員長】

それでは再開したいと思います。

「その他」ですけれども、事務局の方から何かございますでしょうか。

【事務局（文化振興課長）】

連絡事項としまして、今後の文化芸術振興会議の今後のスケジュールをご連絡したいと思います。

<事務局説明>

【神野委員長】

今のスケジュールを見ていただいてご理解いただけたかと思えますけれども、この委員会では、私たちが現計画に沿った事業の評価や意見をしたい、ということと、新計画に対する意見等も求められる、という形になります。なので、例年ですと年2回ということが通常の開催の回数になるんですけれども、今年度と来年度それぞれ1回程度増やすということになっております。私の方から質問ですけれども、新計画の案はどのような作業で作られていくのかということをお聞かせいただけたらと思います。

【事務局（文化振興課長）】

今年度、市民意識調査を行いまして、あわせて現計画の評価を進めたいと思えます。この現計画の評価と市民意識調査に基づいて、できれば今年度中に計画の体系という骨子案になりますが、これらを策

定して、来年度にその体系に基づいて詳細な計画案を策定していきたいと思っております。

【神野委員長】

もちろんここでの議論も、そこには反映されていくということですね。

【事務局（文化振興課長）】

はい。そうです。そのタイミングで、ご報告させていただいて、意見をいただいて、計画に反映すると。

【神野委員長】

わかりました。これについていかがでしょうか。

【大澤委員】

市民意識調査とはどういう形で行いますか。

【事務局（文化振興課長）】

アンケート調査です。

【大澤委員】

アンケートというのは、どういう形でやるんですか。インターネット上ですか。

【事務局（文化振興課長）】

今考えているのは、市民3000人無作為抽出をして、郵送で行います。

【大澤委員】

その意識を調査するための質問項目っていうのはどういう風に決まるんですか。

【事務局（文化振興課長）】

それはこれから考えます。

【大澤委員】

どういう方向で市民意識調査を行うのかというのは。例えばこれに基づいているもので、とか、あるいは今年度計画のこの部分を具体的に聞いていくのか、とか。

【事務局（文化振興課長）】

新計画を策定するためなので、もちろん今の計画をふまえた上になります。一回案を委員のみなさんに送りましょうか。

【神野委員長】

そうですね。ご意見いただいた方がいかなと思います。

【事務局（文化振興課長）】

ではアンケート案を作りましたらいったん皆さんにお送りさせていただいて、それぞれご意見をいただくということで。会議を開いている余裕はないと思いますので。

【神野委員長】

そうですね。おそらくは、具体的な事業の評価をしていただくというよりは、市民からどう見えているのかとか、市民の問題意識とか、そういうものを見たうえで、今までやってきたものをどういうふう
に評価して配置をしていくのか、あるいは新しく何かが求められるのかということを検討するための材
料にしたいということだと思います。今決まりましたけれども、委員の方々にはアンケートの項目につ
いてチェックをしていただいて、こういうものも必要なんじゃないかということのご意見も寄せて頂け
たらと思います。これは7月になりますかね。

【事務局（文化振興課長）】

そうですね、それくらいになると思います。

【神野委員長】

ご協力よろしく願いいたします

【竹下委員】

市民意識調査というのは、これは積極的にしっかりおやりになったらいいと思いますけれども、それ
とは別に、先ほど課長さんのご説明でもそうですけれども、これまでのやってきた流れの中の一番お尻
の、これまでの成果をきちんとまとめておくという、そういうシーズンにもう入っているわけですね。
そういう意味では、これまで関わった利用者とか参加者とか、そういう団体の人たちに対するアンケ
ート調査っていうのはないのですか。市の方からの補助金の使い勝手だとか、あるいは決める過程の問題
であるとか、あるいは利用してどうだったのかとか、会場が使いづらかったとか、そういう主催をする
人たちのアンケートというのも、やっておいていいのかなという感想を持ちました。

【事務局（文化振興課長）】

文化団体に関しては、別途団体向けのアンケートとヒアリングを行うことを考えております。

【神野委員長】

それでは、これはこの方向で進めさせていただきたいと思います。またご協力お願いいたしたいと思
います。よろしく申し上げます。議事としては以上で終了になりますので、ここで閉会へと入りたいと
思いますので、よろしく申し上げます。

【大澤委員】

すみません、一つだけ。文化芸術ということで、千葉市・千葉県がどういう風に思っているのかだけをちょっと伺いたいですけれども、東京オリンピック2020年について。これは国を挙げて文化プログラムという形でスポーツ以外の音楽・芸術に関して動くという形をとっているじゃないですか。それに対して千葉市はどのように参加していこうと考えているのか教えて頂きたいです。

【事務局（生活文化スポーツ部長）】

庁内でオリンピックに対しての組織ができています。その中で今年度中、8月に基礎方針ができるんですけれども、具体的にどういうものを千葉市として取り組んで行こうかという項目がたっています。その中に当然文化というものが入ってきています。その文化のところの細かな項目までは今年度中に行えるかわからないんですけれども、国の方の動き、文化庁の動きもありますので、そこを睨みながら、基本方針の中に、千葉市として何をやっていこうかという体制づくりを含めて、盛り込む予定になっています。ですので、議論としては、今年の8月以降に具体化されてくる、ということになると思います。

【大澤委員】

それは千葉市だけで動くんですか。

【事務局（生活文化スポーツ部長）】

県と連携をとるような形をとっています。あと、九都県市ということで、千葉と、埼玉と、神奈川、ここの政令市と県が連携をして、東京をバックアップしようという動きがあります。それも別途計画づくりをしていくと。

【大澤委員】

それは企業とかもいろいろ巻き込んでですか。

【事務局（生活文化スポーツ部長）】

オリンピック自体が、おおもとの方に企業が絡んできていますので、行政サイドは行政サイドで企業のことを聞いた中で何ができるのか、何を協力するのかという話になってくると思います。

【大澤委員】

それも結局国から降りてくる感じですか。

【事務局（生活文化スポーツ部長）】

そうですね、流れとしてはそうなります。ただそれを待ってばかりだと、遅れをとってしまいますので、基本方針は早く作ろうということで動いています。

【大澤委員】

そういうのはここには出てこないんですか。

【事務局（生活文化スポーツ部長）】

場合によっては、出てくればご報告なり、ご意見いただくということはあるかもしれません。

【大澤委員】

わかりました。

【神野委員長】

以上で第1回千葉市文化芸術振興会議を終わりにしたいと思います。長時間にわたりどうもありがとうございました。